

会党と名称して其の結成に邁進した社会民衆党内藤松氏平野氏島中氏全国労農党内山名氏今井氏空月氏も今こそ國家的政党的の結成せる可き時であるこの内意ありて暫く結成の延期を申し込まれたが國民への党として時は来しむに國家的党の大綱固結の爲めにと其の結成を延期し五月廿八日を期し結成すべくを決定したが廿八日の結成に對して重大なる申合せを放棄して復頃か比喩等に對して不他ありたるを以つて協調する寸毫の如き通告書を亦松放へ送達し之と別向し一方大家に對する声明書と發表し國民の党への過程として新日本國民同盟を組織したのである。

社民 大衆の脱退組と決意を決議せる我等の旧日本國民社会党準備会が我等に叩きつけた通告書は死の通りだ。

通告書

吾人は素に日本國民社会党準備会を結成してより過去六ヶ月間に亘り、創建せらるゝ此の党をして名実共に國民の党にらしめんとする誠意に堪ふ時に結成を延期して同志の抱負を計り以て正々堂々たる新党の発足に命を懸けたりたるも、今日迄の折衝経過を顧みるに依然として既成無産党の通弊たる腐蝕する階級的策謀のため、全然立憲精神の蹂躪せられざるを認め、茲に当準備会は二十九日の結成式に参加せざる事を決議するに至り。

昭和七年五月二十九日

日本國民社会党準備会

旧國家社会主義新党準備会御中

聲明書

祖国日本は、今、文字通りに未曾有の非常時局に直面してゐる。この非常時難を打開して国運民命を輝ける明日まで堪くべく、我等は、同志と共に日本國民社会党準備会を形成し、更に社会民衆党脱退派の諸勢力を糾合して純粋なる國民の党としての國民日本党の結成に努力し来つたのであるが、不幸にして之等社会民衆主義の轉向派が其の心事に於ても、其の思想に於ても、依然として従来のエセ無産党的旧態を脱し得ざるの事實を發見し、山川等の諸勢力と提携することの悪意を痛感したるを以てこの種エセ無産党的諸勢力を基調として新党を組織する意向を全く断念し、こゝに「新日本國民同盟」を結集して汎く天下向慶の士と共にこの非常時の国運を負擔せんとするものである。

昭和七年五月二十九日

新日本國民同盟